

氏名	林 恵津子	部署	社会福祉子ども学科	職名	教授
研究分野	特別支援保育、特別支援教育、障害児生理心理学				
学位	博士(教育学)				
学歴	1984年東京学芸大学 教育学部 特別教科教員養成課程美術教育学科、1994年東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程 障害児生理心理学講座、1999年東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程発達支援講座				
経歴	1999年国立特殊教育総合研究所 客員研究員、1999年東京学芸大学教育学部 非常勤講師、2005年共栄学園短期大学社会福祉学科児童福祉学専攻 専任講師、2009年会津大学短期大学部社会福祉学科 教授、2011年埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉学科 准教授、2014年埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科福祉子ども学専攻 准教授、2016年埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科福祉子ども学専攻 教授				
所属学会（役職）	日本特殊教育学会、日本生理心理学会、日本保育学会、障害者虐待防止学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし						
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	里親委託児における被虐待経験と睡眠障害の発現ー「子どもの眠りの質問票」を用いた調査ー	共同	第43回 日本生理心理学会		○林 恵津子、鈴木 保巳		2025.5.25
2	被虐待経験の有無による里親委託児の睡眠障害の内容-「子どもの眠りの質問票」による評価-	共同	日本特殊教育学会 第63回大会		○林 恵津子、鈴木 保巳		2025.9.14
3	現地レポートNew York 重症心身障害児 病棟でのレクリエーション活動	単独	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 第 16 回学術集会		○林 恵津子		2025.11.29
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別		研究期間	
1	科学研究費基金 基盤研究(C)	瞬目を指標とした重症心身障害児の経年発達評価		研究代表者		2024-2026	
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)			
1	家庭支援論	○	30	対人支援職にあたる者としての心構えを考えることを目的に、乳幼児が家族の中で社会性を身につけ、新しい家族を見つけ、介護を経験し、自らの死を受け入れる過程を時系列で示した。			
2	幼児理解	○	30	一人ひとりの幼児を理解し、その発達の課題や特性に応じた保育を進めるために必要な保育技術を習得するために、幼児の心の動きや発達の課題の共感的理解、幼児の思いや言動への応答、幼児が相互に学びあう集団づくりを中心に、実践事例を交えながら学びを促した。			

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	保育相談支援	○	15	保育所保育と施設保育における保護者支援を念頭に、保護者理解、生活状況の把握、保護者への情報提供について理解を進めた。事例に基づくグループディスカッションを通して職場での協働について学びを促した。
2	特別な教育・保育ニーズの理解とその支援	○	15	幼稚園や保育所に在籍している特別支援を必要とする幼児を理解し、適切な教育的支援ができるような基礎的知識の習得を目標とする。そのために、幼児の生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応できるように必要な知識を身に付けるとともに支援方法を理解することを促した。
3	保育・教職実践演習	○	15	保育者としての学びを総括することを目的に、これまでの学びを文章化して記録に残すことを中心に取り組んだ。また、グループディスカッションを通して、自らの課題を整理した。
4	保育実習事前事後指導ⅠA		4	初めての保育所における保育実習ⅠAの事前事後指導として、学生の主体的学びを支援しつつ、実習先での混乱や不安が生じないよう十分な準備を促した。
5	保育実習事前事後指導ⅠB		4	初めての施設における保育実習ⅠBの事前事後指導として、学生の主体的学びを支援しつつ、実習先での混乱や不安が生じないよう十分な準備を促した。
6	保育実習事前事後指導Ⅱ		4	保育所における責任実習を行う保育実習Ⅱの事前事後指導として、学生の主体的学びを支援しつつ、実習先での混乱や不安が生じないよう十分な準備を促した。
7	保育実習事前事後指導Ⅲ		4	施設における責任実習を行う保育実習Ⅲの事前事後指導として、学生の主体的学びを支援しつつ、実習先での混乱や不安が生じないよう十分な準備を促した。
8	教育実習(幼)Ⅰ		4	初めての教育実習の事前事後指導として学生の主体的学びを支援しつつ、実習先での混乱や不安が生じないよう十分な準備を促した。
9	教育実習(幼)Ⅱ		4	実習の仕上げを目的とする教育実習Ⅱの事前事後指導として、学生の主体的学びを支援しつつ、実習先での混乱や不安が生じないよう十分な準備を促した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	保育実習ⅠA		2025.8～2025.9	初めての保育所における実習として、学生の主体的学びを支援しつつ、自らの保育者として課題を整理できるよう支援した。
2	保育実習ⅠB		2026.2～2026.3	初めての児童福祉施設における実習として、学生の主体的学びを支援しつつ、自らの保育者として課題を整理できるよう支援した。
3	保育実習Ⅱ		2025.8～2025.9	保育所における責任実習を行う保育として、学生の主体的学びを支援しつつ、自らの保育者として課題を整理できるよう支援した。
4	保育実習Ⅲ		2025.8～2025.9	施設における責任実習を行う実習として、学生の主体的学びを支援しつつ、自らの保育者として課題を整理できるよう支援した。
5	教育実習(幼)Ⅰ		2025.8～2025.9	初めての教育実習として学生の主体的学びを支援しつつ、自らの教育者として課題を整理できるよう支援した。

6	教育実習(幼)II		2025.5～2025.6	実習の仕上げを目的とする教育実習として、学生の主体的学びを支援しつつ、自らの教育者として課題を整理できるよう支援した。	
(4) 論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文	2025.4～2025.12	主指導	3名	副指導 3名
(5) その他					
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	該当なし				
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月	
1	養育里親更新講習	埼玉県福祉部 こども安全課	発達障害について 講義・演習	2025.6.27 2025.7.12 2025.9.28 2025.11.30 2026.1.31	
2	発達障害児対応講習会	江東区健康部	5-6歳のこころと体の発達と就学について	2025.8.26	
3	自立支援協議会研修	湯沢町自立支援 協議会	愛着の理解と実践-地域で支える愛着に課題のある子どもたち-	2025.11.20	
4	園内研究会	港区立麻布幼稚園	特別支援を要する幼児の支援について	2026.2.3	
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期	
1	越谷市発達支援訪問事業	指導員		2011.4～	
2	港区教育委員会事務局学校教育部教育指導課	特別支援教育アドバイザー		2007.4～	
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称	内容			年月
1	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容		期間
1	該当なし				
5. 学内運営					
	項目	内容			期間
1	学科等における委員会等	入試実施部会員			2025.4.1- 2026.3.31
2	大学広報活動	オープンキャンパス、高校訪問			2025.4.1- 2026.3.31
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）					
	受賞名	主催		受賞年月	
1	該当なし				
7. 特許の取得					
	特許名	特許番号		登録年月	
1	該当なし				
8. 特記事項					
1	該当なし				